

★神戸の催し物ご案内

1月

△音楽▽

★新春の調べ

9日(日)6時 神戸文化大ホール

民音／一八〇〇円

★神戸外大混声合唱団

9日(日)3時 神戸文化中ホール

四〇〇円

★関西学院大学アメリカ民族同好会

12日(水)6時 神戸文化中ホール

三〇〇円

★甲南大学フォーウィンクル同好会

13日(木)6時 神戸文化中ホール

三〇〇円

★雪村いづみ・沢竜二道行きコンサート

12日(水)6時 神戸文化中ホール

三〇〇円



雪村いづみ

★美樹克彦

15日(土)1時 神戸文化大ホール

前売・九〇〇円 当日・九九〇円

★バンバン

15日(土)4時 神戸文化大ホール

前売・九〇〇円 当日・九九〇円

★ベルリン国立歌劇場オペラ

14日(金)6時半 神戸文化中ホール

三〇〇円

★甲南女子大コーラス部

14日(金)6時半 神戸文化中ホール

三〇〇円

★パンパン

15日(土)4時 神戸文化大ホール

前売・九〇〇円 当日・九九〇円

★紙ふるせん

28日(金)6時半 神戸文化中ホール

音楽友の会会員・一五〇円

★岡村喬生「冬の旅」

29日(土)7時 神戸文化中ホール

民音／一七〇〇円

★関西学院グリーケラブ

29日(土)6時半 神戸国際会館

A・七〇〇円 B・四〇〇円

★美輪明宏

20日(日)2時 神戸文化中ホール

A・三〇〇円 B・二五〇円

★神戸五流能

22日(土)1時 神戸文化大ホール

S・四〇〇円 A・三五〇円

★マリアローラ・ススペイン舞踊団

29日(土)1時半 神戸国際会館

民音／三〇〇〇円

ドン・ジョヴァンニ

18日(火)6時 大阪フュースティ

バルホール

コシ・ファン・トゥッティ

19日(水)6時 大阪フェスティ

バルホール

フィガロの結婚

20日(木)5時半 大阪フェスティ

バルホール

各日共A・一五〇〇円 B・一

三〇〇〇円 C・一〇〇〇円

D・八〇〇〇円 E・五〇〇〇円

F・三〇〇〇円 B・O・X・一〇〇〇

○円

★市民コンサート

22日(土)6時 神戸文化中ホール

無料

★スタイルステイックス

23日(日)6時半 神戸国際会館

民音／三五〇〇円

★莊村清志

24日(月)6時半 神戸国際会館

A・一大〇〇円 B・一三〇〇円

★ホセ・フェリシアーノ

27日(木)6時半 神戸文化大ホール

S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円

B・二〇〇〇円 C・一

五〇〇円

★吉本新春お笑い寄席

2日(日)7時半 神戸文化大ホール 指定席・二〇〇円

★ええびす寄席

9日(日)3時 西宮市民会館

A・一七〇〇円 B・一〇〇〇円

★神戸五流能

22日(土)1時 神戸文化大ホール

S・四〇〇円 A・三五〇

★市民映画劇場「サウンド」

26日(水)7時半 神戸国際会館

民音／三〇〇〇円

★神戸女子大コーラス部

31日(月)6時半 神戸文化中ホール

A・四〇〇円

★マリアローラ・ススペイン舞踊団

29日(土)1時半 神戸国際会館

民音／三〇〇〇円

★人形劇団クラルテ

「ぐるんばのよううちえん」
「おやじさんの大きっぽい」

6日(木)1時半 7日(金)①10時 ②1時半

神戸文化中ホール 前売・九〇〇円 当日・一〇〇〇円

★民芸「炎の人」

17日(月)19日(水)20日(木)21日(金)22日(土)

6時半 15分 滝沢修

23日(日)1時半 神戸文化中ホール

作・三好十郎 演出・滝沢修

出演・滝沢修・大森義夫・伊藤隆

上方柳次・柳太ほか

雄はか

▲その他▼

★初笑い新春寄席

2日(日)7時半 神戸文化大ホール 指定席・一五〇〇円

②4時 神戸国際会館 指定席・一五〇〇円

自由席／一〇〇〇円

演出・レッツゴー三四・桂春園治

上方柳次・柳太ほか

作・三好十郎 演出・滝沢修

出演・滝沢修・大森義夫・伊藤隆

上芳柳次・柳太ほか

雄はか

▲その他▼

★吉本新春お笑い寄席

2日(日)7時半 神戸文化大ホール 指定席・一五〇〇円

②4時 神戸国際会館 指定席・一五〇〇円

自由席／一〇〇〇円

演出・レッツゴー三四・桂春園治

上方柳次・柳太ほか

作・三好十郎 演出・滝沢修

出演・滝沢修・大森義夫・伊藤隆

上方柳次・柳太ほか

神戸っ子読者に左記のステージを割引優待致します。

★丸山圭子ナッシュエンド ラブリー・コンサート

2月2日(木)6時半 神戸国際会館

A・一五〇〇円 B・一〇〇〇円

S・三〇〇〇円 C・二五〇〇円

B・二〇〇〇円 D・五〇〇〇円

大ホール

A・一五〇〇円 B・一〇〇〇円

S・三〇〇〇円 C・二五〇〇円

B・二〇〇〇円 C・五〇〇〇円

大ホール



●愛読者優待席

□人間模様〈第十二回〉

石橋たたくマジメ型／ワールド(株)会長

木口衛

人間模様門

重森 守

元朝日新聞神戸支局長

題字 / 望月美佐

カメラ / 米田定藏

「ワールド」といえば、いまや日本中に知れ渡る二ツの大メーカー。きらびやかなファッショニの世界で、おおかたのご婦人方をひきつけるブランドをそろえたトップ企業である。

その創始者であり、いまも代表取締役・会長として君臨する御大、さぞやシャープでスマートな英國風（おつとニットなら本場はイタリアか）の紳士と思ひきや……「私、いなかの百姓のせがれでね、どっちかいうと昔型の男ですよ。だいたい、人間は小さいね。小ぶりですね。その代り、固いことは固いがねえ」五十三歳。身長百五十四センチ。失礼ながら、ズボンリムックリ型ではある。

「ファッショニうたかて、それはもう社長以下に委せつけり。私自身、センスも何もおまへんのや。（ふつと表情を柔らげて）こない、いうてしもたらいかんのやねこの際は……」

ふとい眉、ギロッと光る眼、厚い唇——強靭な意志を示す顔の道具立ての一つひとつが、暗夜の灯台みたいにこちらを照らした。

「うむ。また、負けん気は強いなあ。背の低いのは誰でもそうやないかな。体力はアカンから、ほかの何かで見返したら、いうとこがあるもんねえ」

創業は昭和三十四年。ジリジリと自力をためこんで、

この五、六年の間にアレヨアレヨの膨張ぶり。「売上目標みたいなもん、たてたことない」くせに、平均六、七割の急成長をとげた。売上額だけをみても――

六年前、八十億円

去年、四百三十億円

「どうということない。（平然と）みんな、自然増ですわ」つまり、放っておいても、ふえていった、とおしゃるのである。

会長室から眺めると、筋向かいの一等地に十階建の新社屋が目下着々と建設中。

なぜ、こんなに伸びたんですかねえ。ヒケツがあったら、教えてもらえまへんか。

「それ、よう聞かれるけど、私にもわかりまへんのや」まさか。アナタは戦後、裸一貫、新開地のヤミ市から身を起こし、ワールドをここまで成長させた張本人やおまへんか。

「うーむ。まあ、ねえ。条件は一つや二つじゃないけれど一番のアレは経営者と社員が相互信頼でガッチリと結ばれとるうこと。こんな会社、ほかにおまへんで。とにかく、あんた、ウチの従業員が外へ行つて、会社の悪口やグチ、いうたことは一遍もおまへんのや」

どこでも中小企業は普通、十七、八年もやつていれば



幹部の三、四人は退社して独立して居るのがこの世界の習い。それが、ワールドジヤ分家は一店もない……そなな。なぜ、出ていかんのですか。せめて、グチの一つぐらいい、どこかで洩らして居るはずですがねえ。

「いや。うちの社員は、ひとの三倍も働いてるんやから給料はまた三倍とまではいかんけど、おそらくよその二倍は払つとる。それでも会社は儲かってる、いうことですな」

「（ちょっと、あわてて）これは、たとえの話や。二倍

と書かれたら、またハツタリいうたと社員に怒られるけど……。また、うちの待遇がいいのは、世間でもみんな知つてますからなア」

今年の大学卒初任給は十万余円。ボーナスの支給額は

発表すると（あまりにも多いので）全織同盟が困るやろと、いつも何ヵ月分プラスアルファというあいまいな表現で「ごまかしてまんのや」という次第。

「なんとも羨しい話。貧乏人のヒガミじゃないが『カネの力で、人の和を保つとるんでしょ』なんて口走りたくなってきたほどだ。

この会社、平均二十三歳半という若さなのも大きなエネルギーのひとつ。四年前、この人から社長の座を譲られた畠崎氏にしても、最近四十歳になつたばかり。あとはみんな三十代以下だそなな。

「いま三十歳の連中が四十すぎになるころには、いろいろありまつしやろけこねえ」

やつと世間なみの心配をしてみせて頂いた。が、それも十年先のこと……。

ワールドといえばニットひとすじ。それも企画——製造——卸しと自社一貫作業の強みがモノをいつてゐる。おまけに受注してから生産するという石橋を叩く主義。小売店からの返品は、いっさい受けつけない強気の商法。長い間、いくら儲かつても土地ひとつ買わず、ひたすら手綱を締めてばかりきた手堅さ――。

「それがねえ、（息をひそめて）実は、独立して一年そこそこのとき、倒産にひつかかって、えらい目におうたんですわ」

在庫の品を現金で叩いて安く仕入れる。それを百貨店向けの問屋筋へ「手形でいいから」と高く卸す。そんな商売をしていたとき、問屋の一つが倒産。計一千五百五十万円の手形が、ただの紙切れになってしまったのだ。

「十七年前ですからなあ。一千万円は大きいおました。また、欲に目がくらんでやられたんやと、これをいい教訓にしたんですけど」

もともと、固くてマジメで通してきたおかげで、銀行もメーカーも協力してくれたから、立直りは早かつた。以来、順風満帆。

「あとは、ずっと、もうけさしてもろてばかり」という結構な航海なのである。

「若いころ徹底的に苦労しとるから、倒産したかて自殺しようなんて考えたこともなかつたし……」

もともと、裸一貫の人生だ。

岡山生まれ。百姓がいやで、尋常高等小学校を出ると一人で中国大陸へ渡った。「大福もち二つで昼めし代わり」という生活。二十二歳のとき終戦。リュックと三十五キロの梱包一つもつて帰国した。中身は新品のメリヤスなど織織製品ばかり。大陸仲間二人とともに、これを新開地のヤミ市で売り始めたのが商売の第一歩だった。

つまり、ヤミ屋ですわな。純綿いうだけで有難がられ

て、アホでも儲かつた。五日おきぐらに正札つけかえて、値上げしてましたよ。そやけど、あの時分、バカでかい儲けでアブク錢つかんだ人は、みんなつぶれてしまつた。彼ら、仕入れのために値上げしただけ、ずーっとマジメに、こつこつ正道いつてましたからな、ヤミ屋いうたかで、悪いことしたとは思てまへんで」

やがて、独立。中山手の一角に七坪の店を持つた。店も体も小さいけど、社名はできるだけデッカイのをと知恵をしぼつてつけたのが「ワールド」だ。

「お客様には笑われましたけど、いざれ、世界中にウチの製品を販賣したら、と意気込みは大きかつたんですよ」夢が現実になった。

コーディネイト・ファッショングの旗手として、いまや当たるものなき隆盛ぶり。

「私は堅実型、社長は『やりたがり』うまいこと喰みとうて、あぶなげない、ちゅうとこですか」

が、いくら儲かつても、ご当人は相変わらず地味なもの。客の接待はしない主義だから、夜の街でツケのきくところ一つない。麻雀もダメ。ときたま日曜にゴルフをするか、謡曲をうなるぐらいが闇の山らしい。

それじや、一体、余暇はなにしてますね。」「おかあちゃんを大事にしてます。（笑つて）ちょっと変わりダネでつせ、私は。世間でも『珍しいタイプや』いうことで通つてますわなあ」

立志伝中の人物には、こんな石部金吉サンがままいらつしやる。まことにつきあいにくい人種である。

なんぞ、夢みたいなもん、持つておられないのですかねえ。

「夢とか目標とか語るの、不得手ですわ。いつも夢をいふ人に限つて、足元になんにもないことが多いですやん」なんという現実主義者！夢がらのファンション屋さんなんて……」

「KFC（コーベ・ファッショング・シティ）という協同組合つくつたけど、ポートアイランドにファンション会

「さーすが。おっしゃる通りでいいのです。

う。うちらにせよどめるの、大でしょ? なあ!」
「どうも私の話、まじめはかりで、オモロナイでして
いいえいえ。結構なこと……しかし、固いなあ。

カッコよくて、と笑われるかな?」
「そ」そ。ふく苦笑して(こ)んなうとうと、エ
社企的に役立つしの、ヒトううですね。

世にいわれる程度のものでいいからねえ!」
「たとえば図書館みたい
なものですよ。建てたんは木口うんらしくて、その後の
進みます。経済同友会や工商會議所で、バラバラに話が出
つくる話も、夢みた青写真だけで一向に話が前へ

……
れ、具体的に申しますと
ついに夢が出了た! そ
持はありません。

残しておきたい、いう気
で何か一つでも世間に
い。そのわり、死ぬま
なんか建てるつもりにな
う気はない。まして銅像
分のゼイタクのために使
しました。その利益を自
つてもろて、企業も成長
が今日みなさんとかわいが
でないと、私、百姓から出て
う。

ニットひとすじ順風漁船、山根は小笠でビリリとカライン
で、いいよ、よ、会長と
しては外向きに、業界の
私もう飾りもん。天皇、
「うん。まあ、会社じや、
営業面は、みんなかんの
なみ。そう、象徴ですわ。
私もうなづかれてくれと
うん。まあ、会社じや、



きませんねえ。

こればかりは、簡単にコードネイティップで訳にはい
詳には参らない。その企業を引っぱっていくうな

業界ぐるみ、いや、もっと全体の盛り上がりを……と

ててやる声が、ほかからも出てこんとねエ」

●KOBEに神戸らしい店を……●

謹賀新年

昭和52年 元旦



本年もよろしくお願い申しあげます

信頼される

KOBE
NIKKEN

店舗装備のプロフェッショナル

(株) 神戸日建

神戸市葺合区御幸通3丁目1
PHONE 078(251)3525(代)

★神戸の集いから

●エロス追求とアボ打上げ



山陽電鉄の宣伝部長として、またエロス研究家として細い体躯にエネルギッシュな活躍を続けた山本芳樹さんが10月30日で退職。その慰労感謝の「山本芳樹氏百人会」が須磨・寿楼で11月19日に開かれた。昨年美しい奥さんを迎えたばかりのキリ芳樹さんを励まそうと108人が集まり、小池義人、福田義文、柴田旭堂、春木一夫、広瀬安美、吉田泰己今岡頌子さんら多彩な顔ぶれだった。(中央山本さん)

●結婚して太った夏目さん



嬉しそうな夏目夫妻



なごやかな夏目夫妻を祝う会

幸三夫妻や、近衛真理、阿部理さんらのデュエットや唄があるなどなごやかで、大川きよし、浜田義則さんら劇団員ら約40人が新しい門出を祝った。

●パリ帰りの鴨居玲

劇団神戸の演出家夏目俊二さんが、女優の小倉啓子さんと11月17日ベルギーのレースの町ブルージュ市でブルージュ市長のもとで結婚。ドイツ、ウイーン、チューリッヒ、アテネとハネムーンを楽しみ、11月28日帰国。12月4日貿易センター24Fのバーグ特別室で結婚披露パーティーが開かれた。長島隆市民局長、安水稔和夫人らのスピーチ。松本

恒例の元町画廊の具象五人展が、11月30日~12月11日まで開かれ、初日には、パリから帰神した鴨居玲、松本宏画伯に、西村功、河野通紀、中西勝画伯ら五人全員が人々に集つてのオープニング。友人、仲間が自然に集い画廊は大賑い。

それぞれの個性をぶつけあっての絵は、手ごたえのある充実さと愉しさがあ



山本万司さんを囲んで(マイクを手にするのが山本画伯)

山本万司氏△国画会会員▽の近作展「花とヌードと姑娘と」シリーズがギャラリー「神戸時代」で開かれた。そのオープニングを記念して11月25日(午後6時)パーティーがひらかれた。山本万司氏ご夫妻を囲み和やかな歓談のひとときを過した。当日、神戸新聞の伊藤誠さん、山本芳樹さん、工学博士の山本忠弘さん、神戸文化ホールの森田副館長などお祝いにかけつけた。

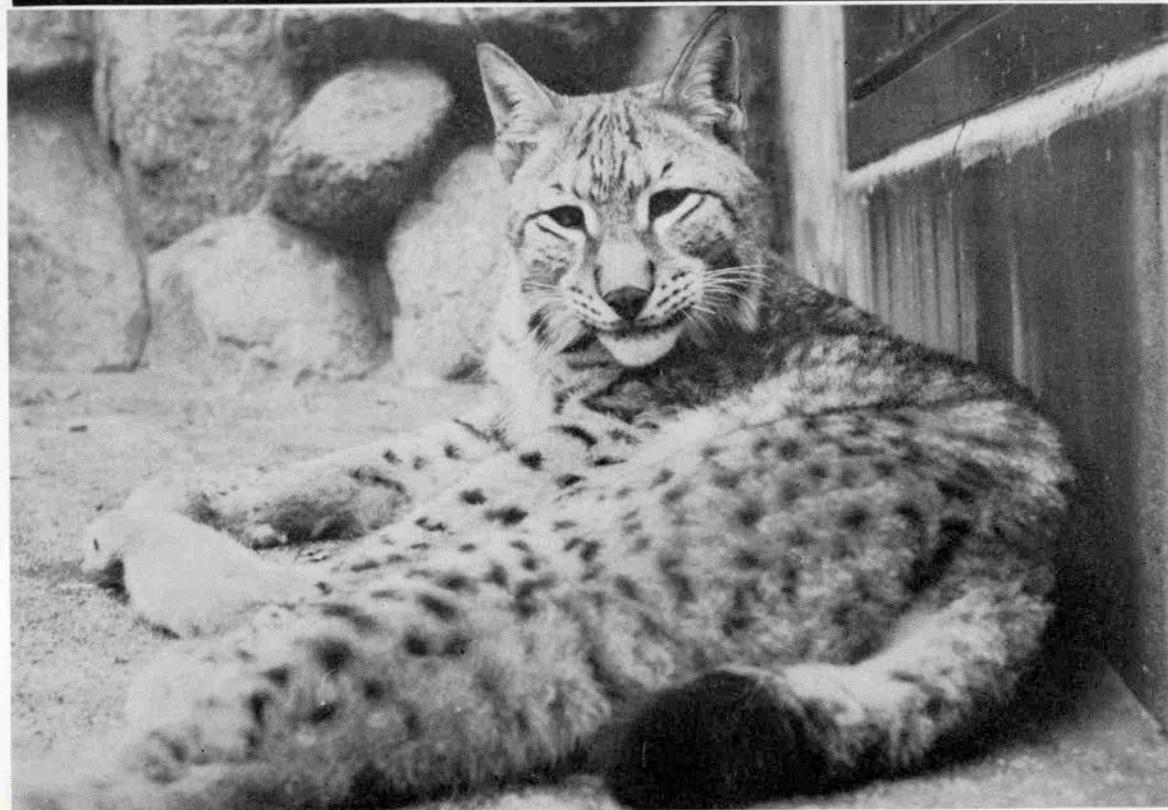
つて、元町画廊の佐藤廉さんの作家を見守る姿も満足そう。★山本万司個展オーブン!



動物園飼育日記—125—亀井城



訪中シリーズ(4) 中国産オオヤマネコ



□ 中国産オオヤマネコ

「お父ちゃんネコ言うてもこれくらい大きかつたらネズミもいつべんにおらんようなるやろなあ！」それにスタッ

イルもええし、だいいち、ものすごいええ顔してはる。家で飼われへんもんやろか！」私服のボクの横にいたお

方の声！それは、中国、天津市よりオオヤマネコが到着した翌日のことだった。

動物園生活二十六年のボク、たまには長靴に作業服を脱ぎて、ネクタイに背広。カメラ片手に『美人』と連れだつて（ここは女房に内緒）お客さんで園内見学とシ

ヤレて見たもある。いや、事実。とき折り私服姿で知らん顔。雜踏に潜りこんでは入園者の『ご感想』を取材してまわることも欠かせない我々の仕事である。

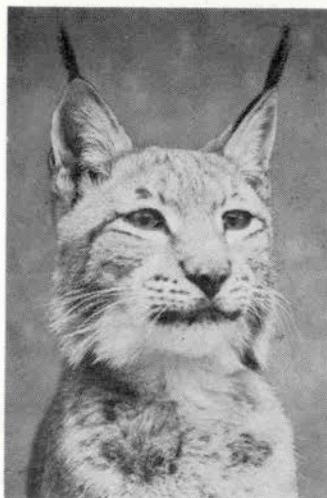
だからこそ、こんな愉快な会話を耳にさせて貰つたのだ。大きくとも小さくともネコと名のつくことが、一般の方々にあやまりを起させている。とにかくイエネコの大形で、野山にすむものをヤマネコとよぶのだ。とストレートにイエネコとのつながりを考えさせてしまつたのだ。

「あ！ やっぱりうちのネコと同じに手で顔を洗つてい

る」「座り方がまた、まねきネコそのままや！」

「それにあの短い尾、切つてあるのとちがう！」

いやはや、これみな動物園側の説明不足。責任を痛感



どうです。このりりしい顔立ち

させられたことだった。

〔ネコ科の仲間〕

トラ、ライオン、ヒョウ、がネコ科の動物で我々の飼うイエネコとも近い同じネコ科にあることはご存知のとおり。

だが、ネコ科をさらにヒョウ亜科とチーター亜科としてネコ亜科の三つに大別される。そのネコ亜科をさらにはまたヤマネコ群とイエネコ群とに分けることを知つて頂きたい。もちろんオオヤマネコはヤマネコ群にはいるわけだ。

さて、その特徴をひろってみよう。

◎猛然と相手を攻撃するときあのすごい「ほえ声」をだすことができる的是トラやライオンなどヒョウ亜科。ヤマネコは「ほえ声」を出せない。

◎チーター亜科はネコ科にありながら、ツメをひっこますことができない。などかなりのちがいをもつてゐる。◎ヤマネコ群の耳は先がとがつており、とくにオオヤマネコの耳の先端に長い冠毛があるのも特徴のひとつ。それにはひきかえイエネコの耳はまる型が基本型。

◎背や胴の斑点がヤマネコではほとんどのものが背骨にそつて頭から尾の方向に流れている。その反対にイエネコは背から四肢に向け流れているものが多いのである。◎また水を嫌うイエネコに対しヤマネコはたくみに泳ぐこともつけ加えておきたい。

〔まるで家具だった輸送オリ〕

その日、昭和五十一年十一月十六日、大阪空港に到着した中國民航機から運び出された四つの輸送オリを眼前にボクは、もう無事だろうか？などという気持でオリの中をのぞくことができなくなってしまった。

濃いつやのあるスカイブルーのエナメルで上塗りされた運送オリ。やや背の高い2個はタンチョウヅル。少し長めの2個がオオヤマネコだったが、クロームメッキの取手金具に鉄格子。オリの底にはスノコが敷かれ、天井は頭を保護するため厚いコールテンが張られ、前後の落

し式オリの扉は音もなくゆるりとすべり落ちるという手仕上げ作り。それに何よりもオリの中の動物たちへの不安を考え、鉄格子出入扉に、本格的なシルクのカーテンが取りつけられている事だった。そのカーテンをそおいと開けてみると、いました。この可愛いい瞳をボクに向かへて寄せて近づいてくれたのはよかつたが、つい得意になつたことが失礼になつたのだろう。「ブーッ」と、初対面の攻撃をボクにあびせてきた。

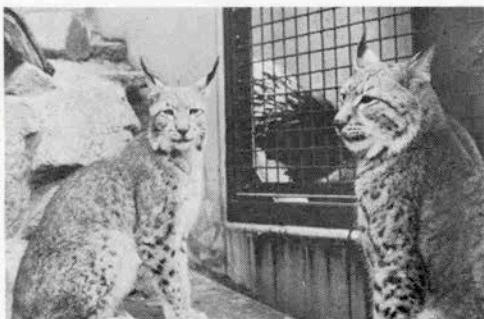
空港での通関手続

きなど終了まで約一時間少々というスピ

ード振りも日中友好使命という動物たちへの関係機関のご配慮のあつたことと言うまでもない。

午後六時前、無事動物園に到着。二ヶ月の工事期間で仕上ったタンチョウ舎へはすぐ放鳥してやつたが、オオヤマネコは少々苦心することと相成ってしまった

何にせ、日没してしまつたことが人間側に不利となつたことかくせない。予定された飼育舎に、その家具のようなオリを押しあて、さて、扉を上方に引開けたらどうだろう。外灯や照明灯の明るさが逆効果となつたのか、全開された扉にさえ知らん顔。一向に外へ出て頂けない。ちよつと近づけば、すかさずキバをむき襲いかかってきた。旅の疲れと対面する人のちがいが分るのだろうかオリから出たとたんに二頭は飼育舎、ところ狭いとばかり「キキ鼻」をすり寄せ、歩き回り、やつとのこと座つて



獲物を狙う鋭い目つきのオオヤマネコ

くれたのは二昼夜すぎてからのことだった。
到着の翌日、宮崎神戸市長参列による動物引渡式典。その日、ボクは入園者にまぎれ、入園者方々のご意見を見耳にしたのである。

〔奇偶十六の日旅立ち〕

神戸市の姉妹都市、中国天津市へ、神戸生れのキリンを贈るため、オリに馴らせるため可愛想だが親から離したのは出発四十六日も前のことだつた。輸送オリの中に入らないと餌が食べられないよう工夫したことから、もうすっかりオリに馴れ、平気で入り、座りこんでくれるまでになつてくれた。

さて、出発の前の日、「ここまで馴れているのなら明朝でも間にあうのでは」という多数意見もあつたが、用心を踏んでその前日夜、輸送オリに収容する作業をはじめたらどうだろ。あれだけ中に入りこんでいたキリンは頑としてオリに近づかず逃げ回りとうとう強制的に収容したのは夜の十時すぎにもなつてからのことだつた。その別れの日を悟つたキリンの児をトラックに積み込み、八頭の親兄弟に見送られ、動物園をあとに旅立つたのが昭和五十一年七月十六日のことだつた。

その満四カ月ののち奇偶にも十一月の同じ十六日。キリンの返礼にとオオヤマネコひと番。タンチョウヅルひと番が十六日に出発空路到着したのだった。東北地方で捕獲されたときは生後一ヶ月。その後人工で育てられたとあって少々の難題にも平気に二頭でじやれあうかと思えば突然伏せ、はたと静止、何かを狙いはじめた。その視線には園内放し飼いのホロホロチョウに鳩やスズメそれに動物舎にうろつくネズミだった。ちなみに、中国語による飼育方法説明を記せば、中国北部産。高山の密林で単独か数頭で住む。朝・夕に活動し春に交配。約六十二日で二~三子を生む。エサは新鮮な牛、羊、兔、鶏肉を与える。骨粉や少々食物も与えること。

体長およそ一米、尾は短かく十五センチ位。体重二十七五キロ。

△王子動物園学芸員／写真も△

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

<神戸のファッション都市化をめざす>

K. F. S. news 15

事務局／神戸市生田区元町通2丁目37村田ビル
デザインルームナカハラ内 TEL 391-4768

●今。人々が求めているのは“自由”の表現



パリの藤金やす子さん

現在ロンドンではアランスクールとサックススクールへ私ども神戸美容専門学院の生徒達と一緒にスケールより5分のスイスセンター2Fに在するアランインターナショナルスケールにて研修しております。

現在ロンドンではアランスクールとサックススクールが美容界で大きなウェートをしめている。ここでは国家試験が無く本当に実力の世界、私たちが入ったクラスは外人学級で全くインターナショナルである。

研修は毎日学校の募集する実際のお客様を使つて行うので非常に実力がつくようである。私共の東京店・店長を一年間の留学のために残してきました。

9月26日、S·H·C·F(フランス高等美容組合)のニューライン発表のため、パリ・モ

藤金やす子<ヘヤーデザイナー・K. F. S.>

□ 欧州（ロンドン・パリ）研修旅行より

9月16日、ここはロンドンの中心地、ピカデリーストリートより5分のスイスセンター

2Fに在するアランインターナショナルスケールへ私ども神戸美容専門学院の生徒達と一緒にスケールより5分のスイスセンター2Fに在するアランインターナショナルスケールにて研修しております。

今や自由の時代であるとしています。スピード적이며、エレガントであり、それは求める人々の自由であるというスローガンに私はすごく共鳴しました。

世界から集つたS·H·C·Fメンバーと共に三日間の研修を終えドゴール空港より再度ロンドンスイスセンター研修を経て10月8日午後2時ヒースロー空港より帰路東京へ。

● K·F·S マンスリーサロン

1月例会／本年より金曜日に開きます

1月14日（金）午後6時30分より9時

新年会／於—北京樓

講師／亀井一成氏／王子動物園学芸員／
テーマ「動物界の顔役たち」

会費／¥5,000



亀井一成さん

2月例会

2月18日（金）午後6時30分

講師／大谷武司氏／神戸新聞マーケティングセンター調査部長／
「新しい消費者層について」

□話題のひろば

I

● 兵庫県の文化を育てた人に 「ともしびの賞」 贈られる



「ともしびの賞」を坂井知事から受ける人々。県民会館11Fホールで。

今年度の「ともしびの賞」の受賞者が決まり、第2回「ともしびの賞」贈呈式が11月26日(金)午後1時30分から県民会館11階ホールで開かれた。挨拶に立った坂井時忠兵庫県知事は「本当に地道に兵庫県の文化を守り育てて下さった皆さまに心からお礼を申し上げたい」と10人4団体を表彰した。

今年の受賞者は西田徳次(有馬人形筆の製作の継承と後継者の育成)、昔の芽グループ(昔屋(昭和39年以来文化財の調査研究指導などに貢献)、麦わら音取保存会、伊丹(文化遺産麦わら音取を復活させる)、阪上文夫(宝塚(郷土史の研究による著書や論文の発表))、木村栄次(明石(短歌の創作や石文庫の主宰)、杉原紙研究会(多可郡加美町(古い歴史をもつ杉原紙の復元と民芸品の創造)、井上一夫(竜野(西播文学界の設立)、中上実(家島(郷土史研究遺跡の発掘調査)、溝尻頼吉(日高町(日高美術協会結成)、リーダーシップ)、柏村儀作(生野町(生野史の研究遺跡の発掘)中山正一(篠山町(岡書館活動に専念、郷土史研究)、丹波布の復興と技術保存)とともに洲本(淡路での演劇活動)、木下久市(南淡町(人形浄瑠璃の保存と後継者の育成、壇尻歌)

●「ニューセンター」ビルオープン

センターハー街に新風 話題を呼ぶ映画館や書店



12月5日に行われた「ニューセンター」ビル完成記念のテープカット（写真提供／神戸新聞社）

センター街に新しいファッショ
ンビルが完成し、十二月三日完工
記念式典が行われ、五日にオープ
ンした。このビルは神戸市都市計
画局と地元の三宮第二防災建築街
区造成組合（米崎岩雄理事長）が
事業を進めてきたもので、昨年の
七月より着工された。

このビルは「ニューセンター」
と名付けられ、地下一階には、書
店、一階は従来の専門店街、二階
から四階にダイエー（三月オープ
ン予定）、五、六階が映画館二館と
なっており、七、八階は同ビルの
事務所、倉庫といった構成。

米崎理事長は「昭和四十二年に
防災建築街区の指定をうけて約十
年かかりました。初めての試みで
どうなるかと心配でしたが、一応
理想のものができたと思っていま
す。どのようなテナントが入るか
という点が一番気になりましたが、
有力な方々に入つてもらえ、若い
人たちに人気を呼ぶと思つていま
す。」と熱っぽく語る。各店の内装
も近代的なムードで親しみ易い。

センター街の山側は「さんプラザ」
「センターブラザ」それに現在工
事中のビルとファッショビルが
一連となり、南側の「ニューセン
ター」とも将来、渡り橋によつて
連結される予定だ。このビルのオ
ープンによって周辺の近代ビル化
へ大きく前進したようである。

●知らざあいつてきかせやしよう
花の神戸の外人若衆たち

□話題のひろば

III

仮名手庵歌舞伎 吉例興行

カナディアン・カデミー・ガクセイ・カブキ



ケン・エリス、ボブ・エルダー、ロス・グリヤ（左から）演じるところの「弁天小僧」（写真上）
とボブ・エルダー、ハイジ・ジュレッファー、ロス・グリヤ（左から）の「助六」（写真下）

「これが神戸の街の特色だな」文化ホールの11月28日の情景を見てそう思った。演し物は仮名手庵歌舞伎。本格的歌舞伎をカナディアン・アカデミー（六甲長峰台）の外人生徒たちが、時に威勢よく、時に歌うような節まわしで演じ、外人日本人混じって熱心に観劇。

海野光子先生——大正三年にカナダ人の宣教師が創立した日本有数の外国人学校のたつた一人の日本人教師。その海野先生の指導でもう六回を迎えた吉例仮名手庵歌舞伎が初めて学外で公演したのだ。

「せめて衣裳をつけて舞台稽古ができる……いつも当日初めて衣裳を着るという状態だから一日目（27日）はやっぱり散々だつたんですよ」緊張と慣れぬ重い衣裳、小道具……コチコチになつた。連日の深夜までの稽古の成果が出たのは二日目とか。「うちの歌舞伎は美しさと熱意ではどこにも負けないですね。演技も高いものをを目指してますし……」何と素晴らしい言葉を見ながら、ロビイで売つて

た手づくりのチョコレートケーキを食べて「助六」「弁天小僧」の歌舞伎十八番を見るなんて、こいつ文句をいえますめえ。

●Let's Enjoy Standard Jazz.

キューートな歌声で

□話題のひろば

IV

鍋島直祐トリオ
ジャズリサイタル開く
滝えり子



ムーディなナンバーをのびやかに唄う滝えり子と鍋島直祐トリオの演奏風景

神戸は中山手にある「アルバトロス」のえりちゃんとナベさんのトリオが、アットホームなジャズリサイタルを開いた。と書けば仲間内の呼び名になるが、そんないまわしがびったりの会。

それは12月3日の夜のこと。

「抱きしめたいこのひととき」
「Let's Enjoy Standard Jazz」という白いタイトルが美しいライトをあび、布引の滝にちなんで芸名をつけたという滝えり子は、ストレートでムードイな歌声を神戸文化ホール(小)の会場に響かせて観客を魅惑した。鍋島直祐のピアノとバイオ。竹内郁夫のドラム。田中政好のベース。そしてプラスワンのゲストはピアノの宮原透。

演出／若林輝雄、照明／林啓介、司会は小山乃里子。

この日のためにとブルー、ピンク、ペーブル、ブラックと4着のドレスをチェンジしたえりちゃんは、「アゲイン」や「マイファニー」「バレンタイン」「慕情」など古き良き時代のレパートリーの数々を歌い宮原透作曲の「ナベさんのためのブルース」や「キューート」などを鍋島トリオが演奏。田中政好さんの「マックザナイフ」など手なれたもの。

「アルバトロス」の店内で楽しむときと違ったステージのリラックス・スイングぶりは、のびやかで神戸らしい雰囲気があふれていた。

andrē courrèges

■ファッションレポート ボンジュール・クレージュ！

藤本 ハルミ



一言でいえば、シンプル&イージー&スポーティップであった。ターコイズブルー、ラベンダー、レッド、ピンク、レモンイエロー、グリーン等々カラフルで澄みきったブリリアン・トーンは実に鮮かで、今年の芥川賞に“限りなく透明に近いブルー”という名のものがあったが正に透明に近いブルーでありピンクでありマルチカラードであった。

ミニを世界中にはやらせたクレージュ氏はパリの男性デザイナーの中ではまれに見るノーマルで健康的な精神の持主だといわれているが、彼の作品を見ていると彼の表現しようとする世界はモンマルトルのけむつたパリの風景ではなく、それは南仏ニースの紺碧の空のもとにくりひろげられる生命の讃歌、色彩の饗宴ともいってべきで、明るい青春があふれ、見る人に生きる喜びと限りなき未来を信じる勇気をあたえてくれたように思われた。ショーンはコミカルに描いたエールフランスのジェット機からスチュアーデス、機長、おしゃれなお客様が次々と降りてくるといった場面から始まって避暑地の海辺や山莊、スポーツ場面ではテニス、乗馬、スキー、ホッケー、サーフィン、アメリカンフットボール：ETC、はては決闘、交通事故迄あらわれて救急車のサイレンとともにタンカを持つた看護人があらわれるといった正に生活そのものを舞台に二百点近い作品がオムニバスなドラマを見せてくれた。

素材はコットンとコートティングしたギラギラ光る布が印象に残ったが、どのドレスも人の体を拘束せず人間が何かをやるためにその目的に一番ふさわしい衣類という原則をはつ

きりと見せてくれたように思う。

このコレクションのインタビューに答えて彼は「私は自分を服飾のデザイナーだとは思っていません。土木建築や自動車、その他にも沢山興味を持っています。だから私の作る服は私の持ち味を生かしたものでそれは環境の一部だと思っています。

現在の環境をもとにして新しいものが生れどういう服が今の環境に合うかを考えながら服を作り出しているのです。

現代はテンポも早くアクティブです。それに必要なものは行動しやすく明るいものだとと思うのです。その中でこそ女性は美しいのです。」と語っています。

今パリのプレタ界では日本の高田賢三、三宅一生、山本寛斎といったデザイナー達が東洋の布をまといつけるという衣生活の感覚を主にして直線裁ちの大膽なシルエットを発表し世界に大きな影響をあたえていますが、それに対してクレージュこそはヨーロッパのマン・テーラーから発達してきた立体を原点とし、その延長線上のナウなドレスを作っている人物なのではないでしょうか。だからこそ東洋人である私は彼のケレン味のないモダニズムにひきつけられてしまうのです。



アメリカ・カナダひとり旅△3▽

シアトルの日系人たち

小畠 延子 ▽家庭養護促進協会▽



橋口さん宅で。左よりバーソン夫人、筆者と橋口さんの母、山田夫妻

橋口さん宅で。左よりバーソン夫人、筆者と橋口さんの母、山田夫妻
シアトル市には多くの日系人が住んでいます。私はシ
アトル滞在の10日間は、日系二世の橋口さん宅でお世話
になりました。ご主人はボーリングという飛行機会社の
技術師で、夫人は洋裁学校の教師です。二人の娘さんはす
ぐ一人の娘さんがいますが、一人の娘さんはすでに社会人
になりますが、一人の娘さんはすでに社会人

になり独立してアパートで生活しています。

二人の子供たちはワシントン大学の学生で寄宿舎に入
り、橋口夫婦の隣家には夫人のお母さんが一人で住んで
います。夫人のお母さんは、誰かの援助を受

けなくとも、亡くなられたご主人の年金と、自分自身が
かなり長く働いてきた年金とで生活しています。せいた
くはできなくともごく普通の生活ができる程度の給付が
保障されています。

このお母さんは七才の時両親と共にシアトルへやつて
きました。外来者が社会の一員として受け入れてもらう
までには相当の苦労があつたようです。一世達は血のに
じむような思いで一生懸命働きました。そして娘や息子
たちには高等教育を受けさせました。高等教育を受けて
も、閉鎖的・排他的でなかなか思うような就職がなかっ
たそうです。しかし、日本人独特的根張り強さと、コツ
コツと積み上げていく堅実さは、いつの間にか優秀な民
族として認められ、日系二世達はシアトルの知識階級に
属している人達が多いようです。

シアトルには明治会という一世達の集団があります。
明治生れの日本人達が思いっきり日本語を話し、花札等
の日本独特のゲームを興じ、昔なつかしい歌謡曲を聞い
て、日本食に舌つづみをうつて半日を過ごすのです。そ
れは、個人の会費と州政府よりの援助を受け運営されて
います。彼等は日本を懷しんでも決して日本に帰りたい
とは思っていません。もはや彼等にとって日本は外国。
私がこの明治会で書道のデモンストレーションを行った
時近々に開設される老人ホームの看板を書くことを頼ま
れ「シアトル敬老ホーム」と墨書きしました。アメリカ
は六五才以上の老人の八五%以上が息子や娘たちと一緒に
に生活せず、老人だけで暮らしています。アメリカ人の
独立精神は日系一世達にも浸透していて、一世達はどん
どん高齢化し、連れあいに先だたれ、あるいは寝たつき
りになってしまふと、老人ホームに入所するのです。
「Good Morning」ではなく、「おはよう」と軽やかな日
本語で日系一世達のお世話をしようとシアトル敬老ホー
ムができました。しかし、なかなか日本語を話す職員が
なく、大きな壁にぶつかっています（三世はほとんど日
本語を話すことができません）。食事も一日三食の一回



シートルの明治会で書道の実演

は必ず日本食です。州政府からの負担金と、入所者の保険によってまかなわれます。アメリカでは男性はもちろん女性も育児から手が離れるほとんどの人達が働いています。かなり高齢になるまで……。入所者の保険というのは、働いていた時に積み立てていたもの、日本の厚生年金にあたるものですが、保険のない人は、州政府より援助があります。また、七階建のシートル市内を一望できる景観に恵まれた「かわい記念ハウス」という低所得層の老人アパートもあります。一世のかわいさんという方の遺産で創られ、ここも州政府よりの援助を受けて運営されています。一人つきりの人もあれば、夫婦連れの人もおり、ここも三食に一回は日本食の料理。共同の大きな食堂と、ゆったりした応接間と洗濯場があり、裏庭には花畠、野菜畠があります。どんどん高齢化してゆく一世達へのこれらの細やかなサービスはアメリカ二百年の開拓史の中で、日系人が果たした役割の承認ではなかろうかと思いました。そしてこれが、アメリカ独特のヒューマニズムではないでしょうか。

日本では「一人暮らしの老人、死後三日間も発見されず」という新聞の見出しが、私達はよく見かけます。この記事が紹介された時、新聞社側は悲惨さを訴え、読者

は憐憫の情を持ちます。私はいつもこの種の記事を読んだ時、誰にもみとられず、世を去ったこの老人は本当に不幸だったのだろうかと思います。人知れず、自分だけの世界で最後の息をひきとることができるのは、かえつてしまわせではないだろうかとさえ思うのです。アメリカの老人は一人つきりになつてもほとんどの人達が自分の子供達と生活を共にしません。私が滞在した橋口さんは、主人のお父さんも晩年は一人で生活していました。そして、亡くなられた三日目にその事が発見されたそうです。しかし、そのような死を不幸な出来ごとだと思う人はいません。問題は、一人で死んでいったか、家族にみとられて死を迎えたかという形の問題ではないのです。経済的には保障がなく、精神的には不安を与えられ個々の必要に応じた施策がなされていない日本では、やはり一人暮らしの老人はしあわせの薄い人たちかもしれません。私はシートルで、一人で暮らしている数人の老人に会いました。その内の何人かは活発にボランティア活動をしていました。例えば、日系一世の人は、敬老ホーム等へ行って恍惚寸前の人へ優しく日本語で呼びかけ彼等の意識を呼び戻すのです。老人ホームも子供達の施設もボランティア活動は盛んです。「いずれ、自分達も老人になるから、何か手助けをしよう」また障害児を持つ親は「同じ仲間同士だからボランティアになろう」また、非障害児を持つ親は、「私達は幸福だから、何か手助けをしよう」とアメリカ人達はこういしながら、ボランティア活動に参加しています。ボランティア活動を受ける側の感謝と喜び、そしてボランティアの満足感、この相互の関係が大変にうまくいっています。私が出会った老人はみんな生き生きしていました。

アメリカ人は感謝の気持を現わすことがなんと上手なのでしょう。そして、アメリカ人はなんと上手に、自分達の生きがいを見つけるのでしょうか。

ママゴンにささげるバラード <1>
かわいそな **刀**

岡田 淳





— 129 —